

伊	興	町
自	治	会
50	周	年
記	念	誌



伊興町会五十周年誌



伊	興	町
自	治	会
50	周	年
記	念	誌

2006.11

H18.11

伊興町
自治会
50周年
記念誌

目次
contents

伊興町自治会会長 挨拶 2
 足立区長 祝辞 3
 伊興町自治会の活動 4~7
 【座談会】伊興町自治会 50年を振り返る 8~11
 未来へのメッセージ 12
 伊興の現在 13~16
 伊興のむかし 写真で見る伊興町地域史 17~26
 伊興町自治会組織図 27
 編集後記 28





創立 50 周年を迎えて

ごあいさつ

伊興町自治会 会長 湯川豊明

会員の皆様におかれましては、伊興町自治会の活動に多大なるご協力をいただきまして誠に有難く心より感謝申し上げます。さかのぼれば昭和 32 年 1 月 20 日、伊興小学校におきまして創立総会を開催致しました伊興町自治会が 50 周年を迎えることとなりました。誠にお目出たい事と存じます。

初代会長の幸野正松氏を中心として「明るく、住みよい町づくり」の第一歩を踏み出しました。発足後 50 年たち、伊興区民事務所管内の 20 の町会・自治会は、約 16,000 世帯までに発展しております。二代目会長水越長治氏、三代目会長渡辺梅四郎氏、四代目会長塩田栄一氏、五代目会長薊文雄氏と歴代の会長や役員の皆様のご尽力により、かつて平屋建てだった都営住宅が整備され、大境公園や高層住宅へと変貌を遂げました。

平成 17 年 3 月には竹ノ塚駅南側の踏み切りで尊い命を失うという極めて痛ましい人身事故が発生いたしました。一日も早い東武鉄道の高架化実現を求め「竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会」が発足しました。平成 17 年 4 月にはエミエルタワーが完成し、竹ノ塚駅前のシンボルとなっています。

会員の皆様のご協力を得まして、納涼盆踊り大会、ふれあいまつり、秋の連合運動会、賀詞交歓会等の行事やサークル活動を盛んに行っております。創立 50 周年の佳節を出発点として高齢化となりました時代に若い力を積極的に導入して諸先輩方が残して下さった明るく、住みよい美しい町づくりを進めていく決心でございます。今後とも会員の皆様と役員の皆様のご協力を頂きながら、微力ではございますが自治会の発展のために頑張る所存でございます。

終わりにになりましたが、50 周年記念事業実行委員の皆様には重ねて厚くお礼を申し上げます。会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



創立 50 周年を祝して

足立区長 鋆木恒平

伊興町自治会の創立 50 周年、まことにおめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

また、これまで地域住民の皆様の福祉向上にご尽力されてこられました歴代の会長さんをはじめ、役員並びに会員の皆様方に対しまして深く敬意を表します。

さて、伊興町自治会が設立されました昭和 32 年頃の足立区は、千住火力発電所の四本煙突や富士山が遠望できるのどかな田園地帯であったと記憶しております。当時は、道路や下水道が整備されておらず、雨の日はぬかるみ状態で衛生状況も決して良くありませんでした。こうした中で、明るく住み良いまちづくりのために、伊興地区の有志の方々によって、伊興町自治会が発足されたと伺っております。

その後、足立区では、人口の増加に伴い都市化が進む中、伊興地区でも公団住宅や都営住宅などの集合住宅の建設や宅地化が進み、貴自治会から独立された町会や自治会の設立が増えました。

しかし、貴自治会は、今でも 1,000 世帯を超える会員を抱え、「伊興区民事務所管内町会・自治会連絡協議会」に加入している 20 町会・自治会の中でも活発な活動を展開している存在であります。

貴自治会の地区内では、昭和 59 年に都営住宅の建て替えに伴い、災害時の一時集合場所や憩いの場として大境公園が完成、平成元年には都道 100 号線が開通、さらに、平成 17 年には竹ノ塚駅西口南地区の再開発事業が完了しました。今後は、竹ノ塚駅付近の連続立体交差事業の計画も進みはじめ、地区内は大きく変貌を遂げていくことと思っております。

このように、地域の生活環境が変わり、地域社会が大きく変化する中で、区は解決すべき多くの課題を抱えております。こうした課題を解決し、「力強い足立区」を実現させていく取り組みが重要であります。このため、地域の核となる町会・自治会には大きな期待を寄せております。今後とも区政に対するご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、創立 50 周年を契機といたしまして、貴自治会が益々発展されますように祈念いたします。

安心 安全 美しい町づくり
子どもたちを守り、高齢者を
支える町づくりをめざして

伊興町自治会は、
「明るく住みよい町づくり」を
スローガンに掲げ、今年、創立50年を迎えま
した。今、私たちの自治会が目指すのは、
「安心 安全 美しい町づくり」に加えて、
子どもたちを守り、高齢者を支える町です。

現在の活動の取り組み

自治会だよりを発行

広報部

《自治会だより》を発行し、会員の皆様に活動や行
事を周知しています。

スローガンは「命」

防災・防火部

スローガンに「命」を掲げています。

- ① 足立区避難所運営計画に基づき、
 - ・第十四中学校避難所運営訓練
 - ・足立区主催総合防災訓練に参加
 - ・防災組織フェスティバルに参加
- ② 地域歳末特別警戒
12月28日～30日実施
- ③ 生活に即した各講習会実施
(火災報知機設置、おれおれ詐欺等)

公園は町の財産

環境部

- ① 前沼公園を、老人会「万年青会」・子供会・み
ずき会・前沼支部が毎週交代で清掃して自主管
理をしています。
- ② 大境公園、自治会倉庫前の花壇に年2回、花苗
を植えています。
- ③ 自治会全域で、親子ふれあいクリーン作戦に
参加しています。



活動報告や行事が写真入りで
わかりやすい「自治会だより」



第十四中学校
避難所運営
訓練



前沼公園の
自主管理

会員の交流と生きがいづくり

文化厚生部

- ① 会員親睦のための旅行、研修を実施しています。
- ② 敬老を祝います。
高齢化社会到来で、当自治会も満70歳を超え
る方が、1981年(昭和56年)は179名、
2004年(平成16年)は550名になりました。
2005年(平成17年)より、満70歳と米寿
(88歳)の方のみが対象となり、記念品を贈
呈するようになりました。
- ③ 地域交流のためのサークル活動。

◆ 生け花教室 毎月第4月曜日/伊興区民事務所
/草月流・小金井栄春先生

◆ コーラス「クールエコー」 毎月第2、4木曜日
/亀有信用金庫2階/若林良枝先生

◆ 民舞「虹の会」 毎月第4土曜日/伊興区民事
務所/藤海流・藤海栄州先生

※長年、囲碁・将棋大会を実施してまいりましたが
高齢化のために参加者が少なくなり、2005年
(平成17年)より親子ボーリング大会を実施し
ています。

女性の広い視野が町を活性化

女性部

- ① 足立区連合婦人協議会、西新井防火女性の会の
諸行事に参加
- ② 伊興地区町会、自治会連合会の講座、講演に参加
- ③ 地域の交流を図るため、近隣町会盆踊り大会に
参加し交流を深めています。

子どもたちは町のたから

青少年対策部

- ① 夏休み中、栗原北小学校プールにて水泳教室を
2回実施しています。
- ② 年間を通して、非行化防止のための懇談会や運
動会、ビーチボール大会に参加しています。
- ③ 「子どもの安全を守る」について、足立区、中学
校、小学校、各PTA、民生・児童委員と勉強会
を開催しています。
- ④ 小学校を卒業する児童、成人式を迎える新成人
の方をお祝いし、記念品を贈呈しています。



生け花
教室



コーラス
「クール
エコー」



民舞
「虹の会」



水泳教室

町の安全に協力

交通・防犯部

- ① 春秋の交通安全、歳末の交通安全に参加協力し、前沼交差点での交通整理をしています。
- ② 竹の塚警察署主催の「防災、防火、防犯」訓練に参加し、町内パトロール、防犯ビラ配布等の活動をしています。

<特別事業>地域の楽しい行事

「わが町ふれあいまつり」

長年70歳以上の方を招待して「敬老慰安会」を開催していましたが、高齢化社会を反映し近年は招待客が500名を超え、対応しきれなくなり記念品配布のみとなりました。

そこで2001年(平成13年)より、子どもから高齢者まで参加できる場として「わが町ふれあいまつり」を実施することにしました。当自治会の3つのサークル、2つの老人会、2つの子ども会、会員皆様の生きがいや趣味の発表の場として毎年大好評です。亀有信用金庫裏の道で焼きそば、ジュースの販売も行われ、一日中大賑わいです。

ライトアップで「お花見」

代々の役員尽力で大境公園の樹木は見事に茂っています。桜が咲きそろそろ、自治会でライトアップをし、夜桜も楽しんでいただいています。

「親睦納涼盆踊り大会」

毎年7月末に、2日間実施しています。役員、班長の前準備が大変ですが、延べ1000名を超える参加者が笑顔で集い、子どもからお年寄りまで会話が弾み大賑わいです。今年は7月28・29日に開催。創立50周年を記念して揃い浴衣を新調し、参加者たちは気分も新たに楽しく踊りました。今年の参加者は2000人を超えました。

日ごろの感謝を込めて「新春賀詞交歓会」

毎年、会員のほか、青少年対策伊興地区委員会、消防団、小・中学校、各PTA、消防署、警察署及び地元商店会ならびに金融関係者等を招待し、盛大に開催しています。

新潟県中越地震に義援金

平成16年12月7日、新潟県中越地震の義援金71万6,261円を魚沼市(旧小出町役場)へ直接、役員が届けました。募金は、全世帯へ自治会名入りの封筒を配布、当番宅ポストへ入れてもらう方式をとりました。金額は、足立区町会・自治会の単団体の寄付としては最高でした。平成17年3月30日、足立区民交流協会ならびに魚沼市長より、感謝状が贈呈されました。



大人も子どもみんなで「ふれあいまつり」



力作揃いの作品



お揃いの浴衣で



新春賀詞交歓会



伊興地区町自連大運動会

1965年(昭和40年)~1973年(昭和48年)まで、伊興町自治会で各支部対抗の運動会が実施されてきました。その後、足立区全域の町会自治会連合会の運動会が荒川河川敷で1985年(昭和60年)まで実施。1986年(昭和61年)からは足立区全体でなく、区民事務所単位で実施されるようになりました。青少年対策地区委員会等の主催もあるなかで、伊興区民事務所管内では、町会自治会連合会主催の運動会となりました。第十四中学校の校庭に各町会がテントを張り、毎年1000名以上の地域の方が参加し、楽しんでいます。

当伊興町自治会は、昨年まで対抗リレーで9年連続優勝の快挙、その他の競技でも優秀な成績を収めています。わが自治会の結束、人材の豊富ぶりを見せる自慢の選手たちが活躍してくれます。



みんなの要望で得た『竹の塚地域会議室』

- ① 足立区総合再開発竹ノ塚駅西口地区委員会の活動に参加しました。エミエルタワーが平成16年に竣工、その中に竹の塚保健総合センターも移転しました。
- ② 竹の塚保健総合センターの移転後には施設有効利用の一環とし、竹の塚地域会議室、子育てサロンとして、一時預かりの「竹の塚サロン」、子育てサロン「竹の塚ばんぼう」、伊興遺跡出土品が展示される「埋蔵文化財調査室」、シルバー人材センターが入所しています。

竹の塚地域会議室は、地域の要望が実現し2005年10月に開設しました。地域コミュニティを図るため、ダンス、カラオケ、体操教室等に利用されています。

自主運営の、のびのび親子広場

「みんなのおうち」竹の塚地域会議室がオープンと同時に、同所にのびのび親子広場「みんなのおうち」が地域住民の手で開設されました。毎月第1・3火曜日の午前10時~12時まで、赤ちゃんからお年寄りまで世代を超えてふれあい、楽しいひとときを過ごします。お世話役の方々は「地域が慈愛の目で見守って下さるので(場所確保等の心配もなく)安心感の中で活動できます」と話しています。赤ちゃんの遊びを見守りながら、お年寄りとお話ししたり、手仕事などの作業にも参加できます。皆さんもご参加ください。



※本部定期役員会は、原則第二土曜日に開催。

平成18年度年間行事一覧表

4月 6日	春の全国交通安全運動	4月 14日	第五回わが町ふれあいまつり(亀有信用金庫ホール)
~15日		21日	第三回運営委員会
5月 13日	第一回常任委員会(役員紹介等)		(避難所・クリーン作戦について)
13日	足立区少年団体連合協議会運動会(子ども会)	29日	第十四中学校避難所運営訓練に参加
28日	大境公園と倉庫前の花壇の手入れ	11月 3日	ビーチボール・バレー
6月 24日	第一回盆踊り実行委員会		(子ども対象、伊興地域学習センター)
7月 15日	第二回盆踊り実行委員会	25日	伊興町自治会創立50周年記念式典(西新井「江戸一」)
20日	大境公園での盆踊り大会会場設営	25日	親子ふれあいクリーン作戦
28日	親睦納涼盆踊り大会 第一日目	12月 2日	親子ボウリング教室
29日	親睦納涼盆踊り大会 第二日目	28日	~30日 歳末特別警戒
翌日、盆踊り会場整理&慰労会			
8月 6日	栗原北小学校で「親子プール教室」(プール点検のため1日になった)		
9月 1日	舎人公園&河川敷で行われる足立区総合防災訓練に参集		
16日	第一回運営委員会(ふれあいまつり、運動会)		
21日	秋の全国交通安全運動		
~30日			
10月 1日	伊興地区町会連合会大運動会(第十四中学校校庭)		
		10月 14日(予)	新春賀詞交歓会
		2月 25日(予)	ビーチボール・バレー
			(大人対象、伊興地域学習センター)
		4月	第二回常任委員会
		4月	平成18年度定期総会

伊興町自治会 50年を振り返る

出席者 幸野 悦郎 (73歳、前西新井消防第6分団長)
 田中 正次 (82歳、伊興町会・自治会連合会会長、伊興北根町会会長)
 藤波 岩雄 (82歳、元伊興西町会会長、老人クラブ「あやめ会」前会長、伊興住区センター管理委員会前委員長)
 藤波 正壽 (82歳、元足立区議会議員)

司会 薊 文夫 (77歳、伊興町自治会第5代会長)

自治会 永井 静子 (副会長) 筋内 邦安 (副会長) 山崎 あや子 (副会長) <敬称略、五十音順>

7月9日、伊興住区センター会議室で



永井副会長 今年、創立50周年を迎える伊興町自治会では現在、記念誌発行の準備を進めております。25周年誌にはあまり記されていなかったまちの歴史を掲載し、次世代の子どもたちへも残したいと思います。そこで今日は4人の方々に歴史を振り返っていただきたいと思っております。特に自治会発足のころから現在までのまちの変遷、当時の人々がどのようにまちづくりに貢献されたかをお聞かせください。それでは司会を薊さんをお願いします。

司会 石油ショックの後しばらくして創立25周年を迎え、その後バブル崩壊と、長らく景気は低迷しましたが近頃やっと光明が差ししてきました。この地域も100号線が開通し、竹ノ塚駅西口にエミエタワーができる等、発展してきました。そこで昔の伊興町がどうであったかをお話してください。昔はヌカヤ、カワラヤという屋号で店がすぐわかり、今の「伸光堂」の場所が「石橋」でわかりましたね。「観音橋」は観音様へ行くとき渡る橋。また、ほかの橋はすべて木だったので、石の橋は「石橋」とね。入谷の父の実家へ行く時、伊興の駐在所があっただけで、そのほかは関湊さんの平屋建ての家が一軒ポツンとあり、後は榛の木橋までズーッと家がなかった。その当時、馬車が通っていた記憶があるのですが。一同 ありました。

田中 駅馬車で舎人の野口さんが経営していました。※赤山街道を通る馬車の後ステップに飛び乗ると、御者のなが〜いムチが後にまで届いてたたかれ、落とされ、膝っこぞうをすりむいて血だらけになったこともあります。人力車は知っていますか？ 岩崎さんの親がカワラヤの場所から出していた。今のハイヤーよりもっと高かったけれど、お大尽は雨の日などに乗っていました。藤波さんのおじいさんも乗ったことあると思うよ(笑)。

司会 ほおっ。

田中 なぜ伊興がここまで発展したかという、1番地から4647番地まで筆方が多かったの、このままでは混乱すると地名変更をしたのです。道路一つ隔てて何千番って違っちゃう、これはいけないって伊興何丁目というようになった。藤波さんの兄貴の伝(つたえ)さんが土地改良の専務理事で、理事長は横田さん。私も兵隊から戻ってきて農業を始めたが、「田中、お前はちょっと賢いから俺の言うことを聞け」ってんで、土地改良をやったんですよ。紆余曲折を経て実際に動いたのは昭和35年くらい。最初は農地整理を主眼としていたが、将来を見込むなら、大きい道路を造らなくては発展しないと伝さんにいわれ、研究して東京都農林経済部へ行ったんですよ。そしたら耕地整理にそんな広い道路はいら

※歴史名では、赤山道。本誌では赤山街道に統一。



田中さん



藤波(岩)さん

ないって言う。今、面している道路は7m40ある。道路が6mで、水路が1m40。田んぼの土を盛って道路を造った。大体できたところで区に移管した。

司会 紆余曲折というのは？

田中 (三遊亭)円楽のお父さんの吉川さんが台東区の区議会議員で、二人でGHQへ行った。農林経済部のバットン少佐が「現在住んでいる人が将来を見越してやることにだれが文句言うか。数年先のことが読めないのか。お前は首だ」と職員を叱り即、農林経済部へ抗議してくれた。当時は連合国でGHQの力あったからねえ(笑)。こうして道路は、耕地整理組合が約10年間で完成させた。この一件で、らちがあかないときは、上からゲンコツを下ろしたほうが早いと学んだね(笑)。

今でも村の鎮守様は「氷川様」なんです

司会 次に集落内の厨子について(※18ページ写真参照)。私が町会長をやっていたころ、「ここには鎮守様がないのでしょうか」とよく聞かれました。鎮守様は東伊興の氷川神社なのですが、場所が離れているのでわかりづらいです。ところで厨子単位で行われる神社祭礼大般若は氷川様が拠点だった？ それとも厨子単位で鎮守様があったのですか？

藤波(岩) 厨子単位は大般若だけで、合同で祭りをやったのは戦後2、3回、確か踊りをやったね。盆踊りは各町会でやっているしね。

藤波(正) 氷川神社の境内を整備し広くなったときに合同でやったんだね。

司会 それでは今も鎮守様は氷川様でいいのですか。一同 もちろんです。

田中 神社が持っている敷地を貸駐車場にし、初詣客のお賽銭も入るし経営は成り立っているようです。初詣に東伊興神輿保存会が甘酒をふるまい、干支の飾りをくれるので年々人気が出ているようです。

司会 そのように遠方からも詣でる有名な鎮守様なのに地域の人は知らない。

藤波(岩) 氷川神社がそれだけ住民に認識されていないことでしょう。場所さえも分からない人がいるのですから。一時、町会が宗教に関与してはいけないと厳しく制限されました。われわれは神社の氏子ですが、町会で私たちが神社の寄付等の話をする

ことはご法度になったのです。

司会 そんなこともあり「村の鎮守様」という意識が薄くなったのですね。もう薄くなって20年くらいになりますね(笑)。昔は氏子代表が各家庭からお金を集めて、お札とお供物をいただき神棚に上げるという慣わしでしたね。

田中 今でも厨子の人は当番でやっていますよ。暮れになると新しい年に神棚にあげるお札が泥棒除けから家内安全、天照大神まで1セットで1500円。

司会 大般若は今もやっているのですか？

田中 昭和29年に廃止になった。大般若経を保管していた薬師寺はワラ屋根なので戦争中に水が漏ってしまい、お経本がだめになりました。それらは神田や浅草の江戸の商家の人が一巻ずつ、薬師寺へ寄付したんだって。伊興地域は、大般若の6月26日は田植えも終わって「大般若休み」だった。かついで

回って家々で、団子や煮豆を食ったり、きゅうりの漬物で一杯飲んだりしてのんびり過ごした。ところが昭和29年に止めたら竹ノ塚駅踏切で例の事故が起き、「大般若をやらないせいで」といわれたりもした。

司会 大般若は厨子ごとにやったのですか？

幸野 はい、厨子ごとにやったのです。茶箱の細いような般若経が6棹、千貫あって、それを荒縄でしばってかついで揉むんだよ。

大般若は厨子ごとに

田中 厨子ごとに持ち回り最後は小西厨子。途中千住掘や竹の塚掘に落ちたりするんだよ。水掛け合って。

幸野 農家の青年はみんな出たからね。

田中 おうちの奥座敷に6個みんな積み上げて「大般若、は〜らん…」と元気に念仏唱えながらやる。

幸野 これが終わると「おめでとございます」と、屋根に上っておせんべいや菓子を投げるの。入梅どきだから、下に落ちると泥んこになっちゃう。

田中 大般若は、今あったら無形文化財だよ！

藤波(岩) 薬師寺で出す札は疫病払いなので、疫病がはかったときは臨時に大般若を出したと聞いています。

司会 そういってお金はどうしたの？

一同 各人持ちで寄進する。

司会 本当に楽しい行事だったのですね。さて、堀に落ちた話ができましたが。

幸野 年始回りに出かけた人がほろ酔い加減で堀に落



幸野さん

藤波(正)さん

ちたという話もすいぶん聞きました。肥溜に靴を落として翌日かき回して拾ったという人もいるよね(笑)。
司会 用水の話で水車(みずぐるま)を思い出します。一同 ガッチャン、ガッチャンと足で回すのあったし、二人が桶に水を入れてヒモを繰ってうまく水を撒く方式もありました。

司会 うまいものでしたねえ。今の亀有信用金庫のあたりでよく見ましたよ。

伊興町自治会の始まり

司会 次に伊興町自治会の発足に移ります。GHQの指令で隣組がなくなり配給証を配るためにできたのが自治会です。発足した昭和32年ころは、このあたりの20町会が全て伊興町自治会だった。オリンピックがあった翌年の昭和40年あたりから、田中正次さんのところが先頭切って独立をしました。

田中 そう。うちが伊興町自治会の長男なんだよ(笑)。

司会 独立したいきさつを教えてください。

田中 伊興町自治会全体を薬剤消毒するときに、リヤカーで、草むらから各家の汲み取り式トイレまで噴霧するには1週間以上かかり、らちがあかない。それでは町会がつくれるところから独立しようと、私と上田さんと変電所にいた佐々木さんと新聞屋をやっていた緒方さんと4人が動いた。

司会 一つの自治会でやるのに限界が来て、各町会ができていったのですか。ところで当時の糞尿はどうしていたのさ？

田中 糞尿は農家の貴重品。浅草から尾久の方まで行ったね。糞尿だから野菜もよくできたけれど回虫がいるんだよ。

司会 いつごろまでやっていましたか？

幸野 オリンピックを境に下水道が整備されたので止めた。

田中 その後は、船で東京湾へ持って行って魚を大きくした(笑)。

永井副会長 ところでほかの町は「町会」なのに、どうして伊興は「自治会」なのですか？

藤波(岩) さて、私も分かりませんね。

司会 GHQの指令もあり、自ら治めるということで始まったのでしょうか。公園等で自主的に運営するので自治会と名づけているところもあり、まぎらわしい。一時、伊興町も町会にしようという気運

もあったのですがウヤムヤになっている。どうなんでしょうねえ、先輩方。

これからも「伊興町自治会」で

一同 これからも「伊興町自治会」でいきましょう。自治会といえば伊興町というくらい浸透し、歴史があり、本家なのだからこのまま誇りをもってやってください。

司会 それでは先輩方のご意見に従い、50年を機にこれからも伊興町自治会でいくことを再確認できました。今、歴史の証人の方々のお墨付きをもらいました。次に住宅について。今私はまちづくり協議会会長ですが、南地区は都営住宅跡と田中さんほか数人の地権者だったのでまとまり、エミエルタワーと道路が敷設されました。しかし北地区はまだ見通しが立ちません。

藤波(正) 東口は、家がなかったので一気に区画整理ができた。兄が農業委員で、西口も区画整理をしようと提案したら『農地を40%もとられちゃう百姓やっていられなくなっちゃう』とみんなに反対されちゃった。

田中 耕地整理は1割減歩だけれど昔の田んぼは“縄伸び”があったので組合の保留地がいっぱいできた。都心から来た人たちが坪2万円くらいで買っていた時代だったね。

藤波(正) 西口は家が建て混んでいたから区画整理は無理だろうと、伊興・舎人・古千谷は耕地整理をした。西新井の連中は『金と鉛を取り替えてやるのだから少しぐらいのことは仕方がない』と区画整理を強行したそうだよ(笑)。

藤波(岩) しかし、たくさん土地を持っている人はよいが50坪くらいの人家は家も建てられなくなる。
司会 それでは西口は区画整理をしての再開発はとても難しいという結論ですね。

一同 区画整理はできないと思うね。
藤波(正) 現在、行政は土地の評価額くらいの値段しか出してくれないから現実には難しいね。道路を拡幅することが一番のネックでしょう。

※昔の土地は登記面積よりも実際の面積が広いことがあったりする。これを縄伸びという。昔の農家が税負担を軽くしようと、土地面積を過小申告したために起こる現象。



薊さん

司会 次に交通ですが、東武鉄道が1900年に開業になり、そのころは煙を吐く汽車だったのですが、現在は半蔵門線、日比谷線が乗り入れて大変便利になりました。今はさかんに高架化に向けて推進しております。昨年3月15日の大踏切での痛ましい事件もあり、国が4900万円の調査費を出すことになりました。とにかく東武線が(高架に)上がれば西口は大いに変わるだろう。日暮里・舎人線も開通し、竹ノ塚から池袋までの地下鉄が誘致されればまちはいっそう発展するにちがいない。駅前のパスターミナルを整備するだけでも西口はもっと発展するでしょう。さて、伊興前沼公園、大境公園のできたいきさつをご存知ですか？

1500坪の公園に

藤波(正) 第十四中の中となりの大境公園は、当時会長の渡邊梅四郎さん、副会長の河合邑訓さん、文房具屋の岡村和男さんの3人が東京都と話し合いました。当初は都営住宅を5棟建て、公園は500坪で計画していた。ところが3人が都と話し合い、都営住宅周囲の道路は買収費に含まれ、居住者の権利である。町会の申し入れに応じなければ、東武団地の人々に呼びかけて工事車両の進入をストップさせるとはっばをかけた。すると東京都の役人は、びっくりして「地域の意向を受け入れます」と上司に相談した。その結果、500坪の計画が1500坪の公園になったのです。植栽は、地元の業者に要望しそれも実現しました。3人の貢献は大きいですね。

司会 こんなすばらしい公園はほかにはないですよ。自治会も管理等に協力し大切にしている公園です。

藤波(正) 伊興前沼公園は私が当時の長谷川区長に頼まれて、実はうちと東武が契約して造ったのですよ。区長から保健所を造るのに駅から5分以内、500坪以上で探してくれと頼まれた。竹の塚に2千坪あると話すと承諾された。

司会 100号線もまちの発展に役立っているし、公園やエミエルタワーの建設、保健所を地域の自立センターとして活用する等も同じく先輩の方々のご協力があったからでしょう。他にご意見は？

藤波(正) 教育面で、今の親は学校や地域に対する考えが間違っているのではないかと。思う。

私たちの時代は、先生が絶対で、5時間目、6時間目に(先生に)殴られて帰ると、叱られたことが親父にバシてまた殴られるので、ほったたをさすって赤いのを消そうとした(笑)。今の親は先生になぐられると文句を言っていく。私らのころは村の中で一番怖いのは親父と駐在さん。昨今のように子ども本意の子育ては間違えている。だから子どもに親が殺されたりするんだ。叱られたら『自分が悪いことをしたから叱られたんだ』という観念をもたせなくちゃいけないね。そのような観念ができれば足立区の成績も上がるのではないかな？

箭内副会長 親も悪いけれど、学校も事なかれになって何でも穏便に済まそうと思っているのではないかと思います。

永井副会長 伊興町自治会にないものが、自衛消防団ですね。たくさんの方が集まる駅前を抱えた伊興町自治会は地震等の災害対策も十分にしくなくてはと思います。

藤波(正) 昔は大般若と同じで、成年になれば必ず入る青年学級の訓練所が村を守っていたのです。

田中 八興寮(はっこうりょう)といって、青年の道場で訓練の場でありました。男子は剣道・柔道、女子は裁縫を教わった。伊興に住む青年にとっては忘れることができない場所だった。恋も芽生えたしね(笑)。警防団は消防組と言って「組頭(くみと)といったんだよ。

藤波(岩) 戦後、駅前に火事があったとき、この警防団が大活躍したんだよ。

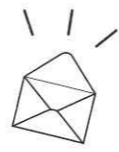
箭内副会長 消防団に入っていないのは伊興町自治会だけです。

幸野 消防団に一人でも多く入ってくればよいのですが。気が合う人が2~3人入ってくれば長続きしますね。サラリーマンは平日、休めないのが大変でしょうが…。避難所単位に組織されるレスキュー隊はあります。

田中 やはりボランティア精神が足りないんだね(笑)。永井副会長、この項目を質問した責任で、6人ほど入会させてくれませんか(笑)。

司会 安心・安全なまちづくりをめざす伊興町自治会にふさわしい消防団への前向きな発言が出たところで座談会を終わりたいと思います。本日は先輩方の貴重なお話をうかがわせていただき、大変ありがとうございました。

未来へのメッセージ



～伊興のこれから～

伊興区民事務所所長 鈴木 良男

足立区の新しい基本構想の基本理念の中に、区民との協働が位置づけられています。

これからは、区民の意向を反映した、まちづくりを進めていく上で、町会・自治会をはじめ区民の皆様と協働しながら推進していくことが何より大切になっています。

住民の相互交流や、活動を通して、地域の連帯を深めていける町会・自治会は、区の最大のパートナーであり、大きな期待を寄せているところです。区民事務所は、区民のための身近な窓口として、さらに地域とのパイプ役として、連携を進めていきたいと思ひます。

第十四中学校校長 千葉 俊治

生徒数、クラス数共に東京で一番。学区外からの通学生徒は約半数。施設の事情で 今年是一年生だけ8学級に制限しました。落ち着いた学校生活や行事の迫力、質量共に充実した部活動、長年培われた伝統と文化は本校の誇りです。

学校がもっと外に開かれた存在に、と願っています。音楽の町コンサートや西口商店会祭、伊興町自治会盆踊り等、生徒が皆さんと一緒にできる場が楽しみです。

東伊興小学校校長 斉藤 登

校長室に「学者如登山」と書かれた書があります。これは東伊興小学校の教育目標「考え深い 心の豊かな 実行力のある子」を目指した日々の教育活動を進めていく上での心構えであると受け止めています。

子どもが「心わくわく のびのび学び すすく育つ学校」であるよう努めてまいります。

栗原北小学校校長 笹川 滝雄

昭和52年に開校以来、本年で創立30年を迎えます。本校の教育目標は「かんがえる子」「がんばる子」「やさしい子」「げんきな子」の四つです。この四つの目標実現のため、頭文字からとった「か」「が」「や」「け」栗北っ子』をキャッチフレーズに、未来に向かって切磋琢磨し、自己を磨き、そして一人一人が光輝く子ども達を育てるために、職員一同がんばっていきます。

いこうのげんざい

伊興の現在



「安心 安全な町づくり」

エミエルタワーには「竹の塚保健総合センター」「休日診療所」が整備されている。また、公共駐車場、駐輪場も運営されている。



駅前赤山街道 正面には大踏切が



竹ノ塚大踏切エレベーター



竹ノ塚駅エスカレーターとエレベーター



伊興町交番

いこうのげんざい

伊興 の 現 在

かつての赤山街道は両側に堀(竹ノ塚堀・千住堀)があった。現在は美しい町並みとなっている。



亀有信用金庫前



駅周辺の道路は電柱が地中化されている



前沼交差点



エミエルトワーの公共駐車場



公共駐輪場&駐車場

いこうのげんざい

伊興 の 現 在



公園は町の財産。緑のオアシス。大境公園の花壇は自治会で管理。



大境公園



前沼公園



東京地下鉄(株)日比谷線竹ノ塚検車区車庫



西口バスターミナル

いこうのげんざい

伊興の現在



大境公園方面から第十四中を眺望



第十四中の正門



自治会倉庫



「みんなのおうち」にて、ボランティアの人と楽しく手仕事



盆踊りには第十四中の吹奏楽部も参加



伊興区民事務所

伊興の歴史

伊興は、伊興遺跡・白幡塚古墳群・若宮八幡神社遺跡などの遺跡から見る事ができるように、足立区では珍しく古墳時代（およそ1700年前）まで足跡をさかのぼれる地域です。水田地帯からは祝部（いわいべ）土器や埴部（はにべ）土器など多量な出土品が収集されています。

1950年から73年まで4回にわたり遺跡調査が行われ、竪穴式住居跡・溝、白玉（うすだま）・勾玉（まがたま）等多量の遺物を出土したため、区は遺跡公園予定地として買収し、のちに伊興遺跡公園（東伊興4-9-1）を開設しました。同公園内に竪穴式住居を復元し古墳時代、縄文時代後期の土器片等を展示している展示館があり、当時を知ることができます。

伊興村の成り立ち

原始、古代にあった現伊興遺跡公園付近の集落がなくなり、中世では、若宮八幡神社（伊興5-13）を中心とする地点に集落が展開したと考えられます。近世（江戸時代）には伊興村が成立します。江戸時代の半ばになると耕地と集落の分布がはっきりし、伊興地区のほぼ真ん中（伊興小学校のあたり）に集落が集中していました。集落を囲み谷下（やじった・清掃工場あたり）、聖堂、五庵、狭間、白幡、前沼、見通、大境、諏訪木、槐戸（さいかちど・西新井四丁目）、京伝、五反田、番田、吉浜の各地字に耕地が広がっていました。



白旗塚

伊興のむかし

写真で見ると 伊興町地域史



現在の伊興遺跡公園



現在の白旗塚史跡公園



大般若の行事

ずし
集落内の厨子

(厨子=集落内の日常生活の付き合い組織)
江戸時代の伊興村の人々は幕領と東叡山領の支配下にあり、それぞれ年貢を納めていました。また、人々は厨子という組織に属しており、その中では幕領支配下の人々もいましたし、東叡山領支配下の人々もいました。当時の厨子には、早房(はやぶさ)、曾田(あいのた)、北根(きたね)、下戸(おりっと)、西嶋(にししま)、横沼(よこぬま)があり、厨子ごとに神社があり他の厨子には参詣しない慣行でした。独自性が強く、一つの厨子が村的な結合でした。明治、大正、昭和時代になっても厨子は存続し、人口増加につれて集落が形成され、竹ノ塚駅前周辺に駅前厨子、狭間厨子がふえ、8つの厨子になりました。村人は厨子単位で神社祭礼や**大般若**など年中行事、冠婚葬祭などを行っていました。

※
だいはんにゃ
大般若

江戸時代、神田・浅草あたりの商人が治安のよい伊興村の薬師寺(伊興5-4)に大般若経六百巻を納めたという言い伝えがあります。その大般若経を6棹の箱(茶箱くらいの大きさの箱をムシロで覆い、真ん中に棒を差し荒縄でくる)に納め、毎年6月26、27日に若い衆がそれを担ぎ、村中を一軒一軒まわる行事。6月26日は北根・早房・横沼の順、27日は下戸・大西嶋・小西嶋の順で回った。各家では奥座敷にムシロを敷き、ご馳走を並べ、薬師寺の住職に五穀豊穰、厄除けのための般若心経を唱えてもらいました。薬師寺が小西嶋にあったので、納める前に6棹を井桁に組み、赤山街道をワッショイ、ワッショイと練り歩いたそうです。大勢の若い衆は酒を飲み、ヒシャクやバケツで水をかけられよく堀に落ちました。そのうしろを子どもたちがソロソロついて回り、お菓子やご馳走をもらい、ほかに祭りのない伊興では大きな行事でした。当時、薬師寺は藁屋根で雨漏りがひどく、戦中・戦後は修繕する資金もなく大般若は腐ってしまい1954年(昭和29年)に廃止されました。その年、竹ノ塚駅踏切で3人死亡の事故があり、大般若のたたりかとうわさされたそうです。長老たちは「戦後10年経って、民主主義の時代だし、『仏、ほっとけ』の時代だから止めよう」と決め、伊興に祭りがなくなりました。今あれば田舎の素朴な伝統行事であったと残念です。



厨子を上空から撮影(1955年頃・昭和30年前後)

伊興町自治会の発足

1947年(昭和22年)にGHQの指令で町内会はいったん解散させられましたが、配給品の受け取りや配布などの生活に必要なため任意団体として残り、1950年以降復活しました。1957年(昭和32年)1月に伊興町自治会が発足しました。1955年頃の伊興は見渡す限り田畑が広がり南方に富士山が遠望でき、牧場もあるのどかな地帯でした。このころ都営住宅が建ち始め、人口が大幅に増えましたが生活環境は劣悪で上水道の敷設も一部で下水道は当然ありませんでした。自治会結成のため1955年8月自治会発足委員会、9月に第1回準備委員会、1956年10月第2回準備委員会、1957年(昭和32年)1月20日伊興小学校にて創立総会を開催しました。初代会長幸野正松氏を中心に「明るく、住みよい町づくり」の一步を踏み出しました。発足当時は872名の会員でした。その後支部が独立し、2006年(平成18年)は1057の会員数です。



現在の遠藤医院付近 畑から電車が見える



高橋牧場 現在の伊興1の1付近

【昭和32年当時】

前沼支部	132人(駅前厨子)
大境第一支部	141人
見通り支部	103人(駅前厨子)
早房支部	155人(早房厨子)昭和46年仲町会となる
北根支部	93人(北根厨子)昭和40年北根町会となる
下戸支部	54人(下戸厨子)昭和51年南町会となる
横沼支部	62人(横沼厨子)昭和43年中央町会となる
大境第二支部	38人
小西支部	31人(小西嶋厨子)昭和44年北町会となる
大西支部	21人(大西嶋厨子)昭和41年西町会となる
狭間支部	19人(狭間厨子)昭和50年狭間町会、東伊興町会となる
横沼第二支部	23人(横沼厨子)昭和43年中央町会となる



旧保健所建設前(1963年・昭和38年) 遠くに旧清掃工場の煙突がみえる

写真で見ると
伊興町地域史



道に水があふれる



冠水時の様子

住宅

1900年(明治33年)東武伊勢崎線竹ノ塚駅開業以来、伊興地区は交通の便がよいため、駅周辺にいち早く(大正初期)村営による集合住宅が建設されました。1934年、35年(昭和9、10年)東武鉄道は沿線開発により利用客の増加を図るため、竹ノ塚駅周辺の土地分譲を行い、1950年(昭和25年)から東武鉄道が道路、上下水道、電気を完備した住宅地を販売しました。それらは伊興前沼、狭間、大境、見通の土地で、1958年~63年(昭和38年)にかけて分譲され、A~H団地と名付けられました。現在でもD団地支部やFG支部といった名称が残っています。

その一方で、東京都郊外の緑地、農地を買収して住宅建設を推進し、1949年(昭和24年)に伊興町見通をはじめ、大境などに都営住宅を大量に建設しました。これらの建物は平屋建て1棟2戸の木造が主流でしたが、1977年(昭和52年)以降は収容力増大を図り高層団地となりました。

このように住宅地が広がる一方、高度成長期まで水田耕作を主体とする農業も行われていました。利根川の水を取水する見沼用水が5つの堀になり伊興全域を流れていたため、堀の埋め立て工事が終了するまでは、台風や洪水のたびに道路も冠水し、長靴が欠かせない地域でした。赤山街道も両側に堀(竹ノ塚堀・千住堀)が流れ、各家・店の前に木の橋を架けていましたが、洪水が起きると橋が見えなくなりよく人が堀に落ちました。駅東口は区画整理により整備されましたが、西口は駅前広場や道路も狭く、都市基盤整備の遅れが目立っていました。老朽化した建物が密集し、広大な未利用地もあり、駅周辺の整備が急務となりました。



亀有信用金庫前で暗渠の工事中

竹ノ塚駅西口南地区市街地再開発事業が計画され、1984年(昭和59年)に基本構想策定、2000年(平成12年)の再開発組合設立を経て、2002年(平成14年)に建築工事着手、2005年(平成17年)エミエルタワー(名前の由来は「微笑みを与える」)が完成。現在は駅前のシンボルタワーとなっています。



エミエルタワー

交通 鉄道

鉄道

1900年(明治33年)東武伊勢崎線竹ノ塚駅が開業し、1924年(大正13年)に東武鉄道は電化しました。そのため電動機、制動機関係を担当する電車庫を西新井に設け、1952年(昭和27年)には現在の西竹の塚に移転、1966年(昭和41年)には営団地下鉄検車区として営団に譲渡しました。



田園風景を走り抜ける



1962年(昭和37年)の竹ノ塚駅前

写真で見ると
伊興町地域史



昔（上）と現在（下）の大踏切

東武鉄道は1961年（昭和36年）、都心乗り入れを図るため、北千住駅の改良工事を進める一方で、竹ノ塚駅を地下鉄直通列車の折り返し駅として全面改良しました。そして翌年、営団地下鉄（現・東京地下鉄株式会社）と相互直通運転<北越谷～人形町>間の運転を開始しました。1964年（昭和39年）には北千住～中目黒間で延伸。これにより東武伊勢崎線と東急東横線が相互直通運転になりました。

踏切事故

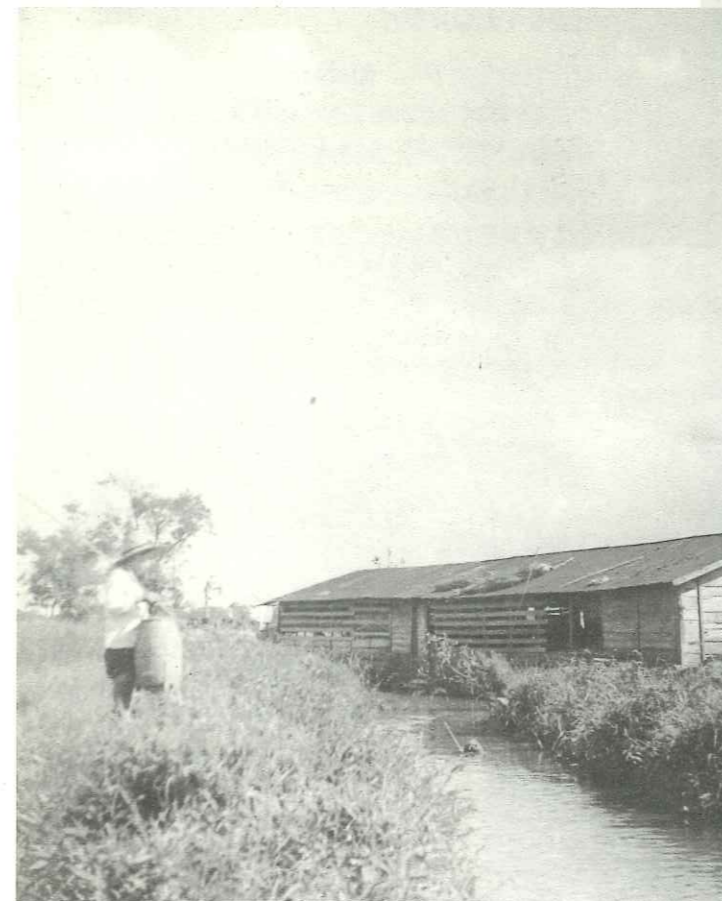
2005年（平成17年）3月15日、竹ノ塚駅大踏切で死傷者4名の事故発生。かねてより赤山街道の渋滞解消と駅東西地域の交流のため、鉄道高架化促進運動を進めていたところの事故発生でした。踏切問題の解決には一日も早い鉄道高架化が必要であると、淵江町会自治会連合会・伊興地区町会自治会連絡協議会が、鉄道高架化の早期実現を求める要望書の署名活動を行いました。延べ198,287名分の署名を足立区長に提出。同年9月30日には竹ノ塚駅付近鉄道高架化促進連絡協議会結成大会を開催し、国、東京都、足立区、足立区議会議員連盟、東武鉄道が解決に向けて動きだしています。

バス（東武バスセントラル足立営業事務所）

1962年（昭和37年）、東武バスセントラル足立営業事務所が西新井営業所から伊興本町2-9-2へ移転しました。現在、竹ノ塚駅西口からは、入谷、舎人、二ツ橋、草加行きバス路線が運行しています。



1962年（昭和37年）北越谷一人形町間が相互直通運転



昔の第十四中付近 向かいにはアヒル小屋が見え、空が広がっていた



現在の第十四中付近（西竹の塚一丁目）

道

伊興地区は広範囲に中世の板碑、^{いたひ}道標が存在し古道が現存しています。

安行街道

100号線が草加市の古道につながり谷塚橋に至る道路は、かつて尾間木千住線といわれていて赤山街道、王子道、通称七曲がりに通じ100号線開通前は重要な道路でした。谷塚橋から赤山道に沿って流れる用水掘りに架かっていた観音橋は現在では名前だけが残っています。

赤山街道

伊興村の内外を結ぶ道路で、古千谷村～竹の塚村へ至る道です。古千谷、伊興両村境付近の榎の木橋（現バス停名として残る）で5堀に分かれ、竹の塚村増田橋から日光街道へ、北は岩槻道へ抜けます。関東郡代の伊奈氏の陣屋が足立郡赤山村（川口市）に造成されたので赤山道と称されました。参勤交代を行う諸藩や旅人馬に、中山道、日光街道の脇道として利用されていました。



赤山街道
両側には堀（竹ノ塚堀・千住堀）があった



暗渠工事終了



現在の交番前交差点

七曲り(ななまがり)

安行街道を南下し、観音橋から道なりに南下する道で西新井橋や大師道に通ずる道でした。曲がりの名が示すようにいくつにも折れ曲がった道で、伊興のメインストリートでした。今も環状七号線の裏道として交通量が多いところです。

100号線(尾竹橋通り)

1946年(昭和21年)4月、東京の戦災復興の一環として都市計画道路が決定。1961年(昭和36年)に西新井橋架け替え工事が始まり、足立区内の工事が始まりました。東京都道補助100号線が、台東区鶯谷駅前から埼玉県草加市に至る谷塚橋を結ぶ延長9.6kmを43年の歳月をかけて1989年(平成元年)4月に全線開通しました。

現在は、国道4号線の交通緩和に役立っています。昔のくねくねした道が多い地域ですので一直線に伸びた広い道路の完成は、喜びが大きく夢と希望を与えてくれました。



大規模な100号線工事



盛大な100号線開通祝い

公園

公園は憩いの場としてだけでなく、災害時の避難所ともなる、都市生活者にとって欠くことの出来ない生活空間であります。伊興自治会内には2つの公園があります。

前沼公園(西竹の塚2-12-4)

1982年(昭和57年)開設
1958年(昭和33年)東武鉄道沿線開発事業による建売分譲住宅の建設時に、緑地として残された空地(当時ここで自治会がホタル狩り、納涼盆踊り大会等を実施)に、足立保健所、西口駐輪所建設が決まったり、子供たちの遊び場もと請願し公園を誘致しました。「地域の庭」として住民自らが管理する公園自主管理協定書要綱に基づき、前沼支部、老人会、子供会、地域有志の4つのグループで毎週清掃をして公園の美化に努めています。



1965年(昭和40年)前沼公園建設前は資材置場だった

大境公園(西竹の塚1-9-1)

1984年(昭和59年)開設
都営住宅の高層化により空地が出来たので自治会の強い要望で公園化。都から引き継ぎ現在は西部公園管理事務所が管理しており、第十四中学校東側から校庭の南方にかけて広がる緑深い公園です。老人のゲートボールを含め、幼児から大人までのびのびと遊ぶオアシスです。桜の時期に自治会ではライトアップし、お花見を楽しんでいただいています。春秋には町会会員さんが花壇の手入れをし、夏は自治会恒例の納涼盆踊り大会が行われています。



現在の前沼公園駐輪場

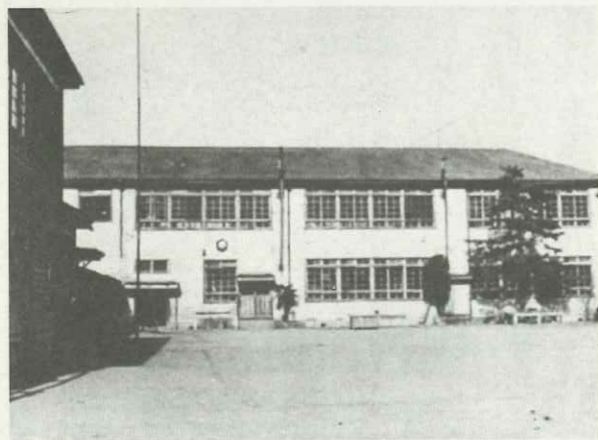


大境公園建設前



緑あふれる現在の大境公園

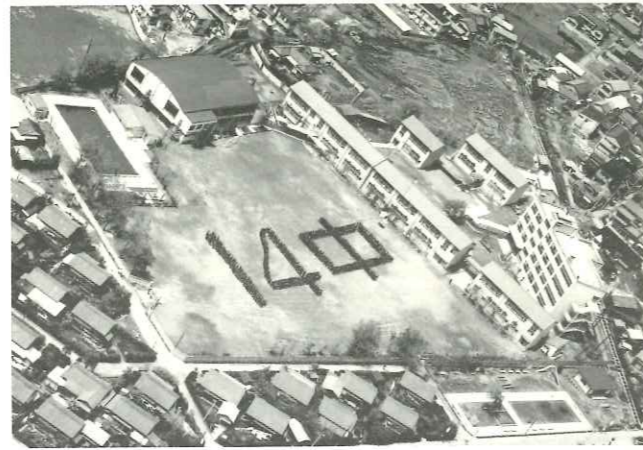
写真で見ると
伊興町地域史



50年前の伊興小



地域運動会は着物姿もあり



41年前、空から見下ろした第十四中

教育

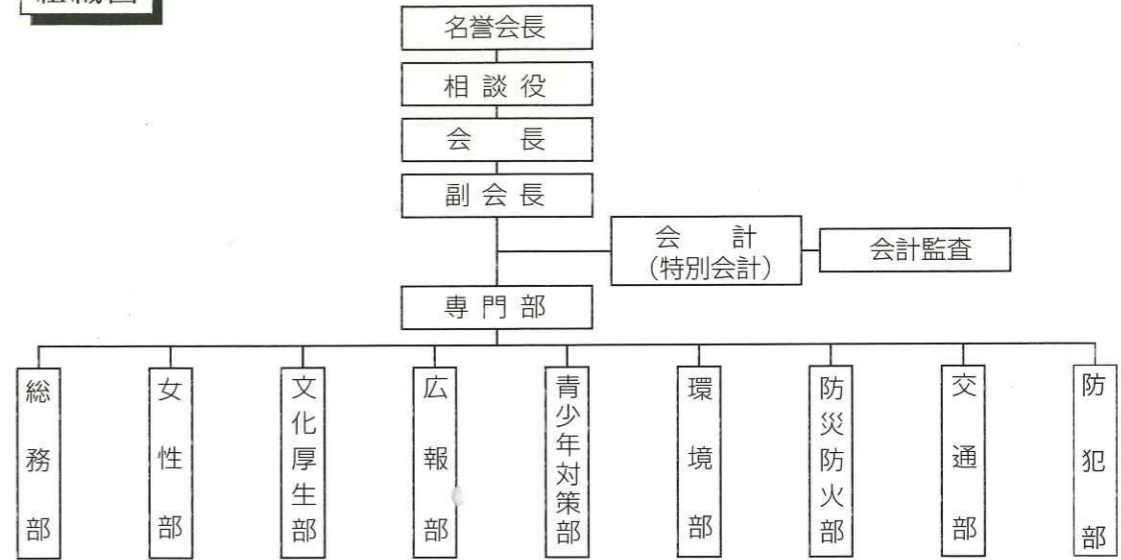
- 1874年(明治7年) 足立区最古の小学校で、西新井村如法寺で開校した新井学校の9番目の分校が福寿院内に設立
- 1876年(明治9年) 現在地に伊興小学校として独立
- 1912年(明治45年) 伊興実業補習学校併設
- 1926年(大正15年) 青年訓練所も併設
- 1935年(昭和10年) 小学校卒業後徴兵年齢までの勤労青少年の教育目的として補習学校と訓練所を統合し東京市足立区青年学校と改称



足立区青年学校の軍事訓練

- 1941年(昭和16年) 伊興小は伊興国民学校となる
- 1947年(昭和22年) 東京都足立区立伊興小学校となる。同じく淵江小学校を本校に、伊興小、舎人小を分校として第十四中学校開校
- 1949年(昭和24年) 現在地(西竹ノ塚1-8-1)へ移転
- 1971年(昭和46年) 東伊興小学校(東伊興1-4-15)開校
- 1977年(昭和52年) 栗原北小学校(栗原4-25-9)開校

組織図



歴代会長

- 初代会長 幸野 正松
- 2代 水越 長治
- 3代 渡辺 梅四郎
- 4代 塩田 栄一
- 5代 薊 文雄
- 6代(現在) 湯川 豊明

支部

- 前沼支部
- FG支部
- 見通支部
- 大境支部
- 大境第2支部
- 西竹の塚一丁目支部
- 西竹の塚二丁目支部
- D団地支部
- 東京地下鉄(株)支部

サークル

- 生け花
- 民舞 「虹の会」
- コーラス 「クールエコー」
- 子ども会
- 前沼子供会
- 若竹子供会
- 老人会
- 万年青会(おもと)
- 松の会

人口推移

町会の独立や出張所再編1986年(昭和61年)で地域割りの変更がありました。住民基本台帳を基に算出しました。

	年(1/1現在)	世帯数	男	女	計	備考
15出張所	1958年(S33年)	1,134	2,715	2,931	5,446	
	1965年(S40年)	3,723	6,926	6,814	13,740	
	1970年(S45年)	6,652	11,149	10,966	22,115	
	1975年(S50年)	10,116	15,361	15,144	30,505	
	1980年(S55年)	11,056	16,537	16,056	32,593	
	1985年(S60年)	11,584	16,722	16,093	32,815	
伊興区民事務所	1990年(H2年)	11,293	15,352	14,731	30,083	※西新井3-4丁目一部です
	1995年(H7年)	11,999	15,420	14,894	30,314	
	2000年(H12年)	14,091	17,293	16,600	33,893	
	2005年(H17年)	15,013	17,684	17,158	34,842	

【資料・写真提供者】

古性定之助

藤波 岩雄

松田季美子

近藤 宏一

昼間浩三郎

大友 栄治

珠村 堅一

田中 正次

小澤 正

保坂 英樹

桑原 イセ

藤田 栄子

山崎 勲

亀有信用金庫

足立区広報課

足立区立郷土博物館

足立区伊興区民事務所

<順不同・敬称略>

編集後記

自治会創立当時は一帯に農村風景が広がっていたそうです。50年の歳月を経て、すっかり都市化した今、インフラ整備もほぼ終わり、今後は地域の人たちの生活の質を高めることが求められています。

創立50周年記念誌は、伊興地区の新旧を知り、この地に愛着を持って暮らせることが、自治会の目標「子どもを守り、高齢者を支える」の一助になるのではないかと、この視点を大切に編集いたしました。

この冊子をご家族団らんの中で広げていただき、各ご家庭で、先人が築いた由緒ある町に住む誇りを高めていただけましたら幸いです。

最後に貴重な資料、写真等を快くご提供くださいました地域の皆様方、行政諸機関に深く感謝申し上げます。

永井 静子

筋内 邦安

山崎 あや子

伊興町自治会50周年記念誌

〔発行日〕平成18年11月25日

〔発行〕伊興町自治会

〔発行者〕創立50周年記念事業実行委員会
実行委員長 永井 静子 (TEL03-3899-4526)

〔編集〕足立よみうり新聞

〔装丁・デザイン〕アヤマダデザイン

〔印刷〕三和印刷株式会社